

NPOパワーアップ補助金事業成果報告会 資料

	団体名	酒々井里山フォーラム
	代表者名	大野 廣
	所在地	印旛郡酒々井町酒々井1091-2
1 事業名	地域創造「馬橋里山夢プラン」	
2 事業費	1,303,223 円（このうち県の支出 500,000 円）	
3 事業期間	平成20年7月10日～平成21年2月28日	
4 事業の目的	町の将来像「人と自然と文化が奏でる幸せハーモニー」の理念に基づく市民活動団体と地域住民・行政の協働によるまちづくりパイロット事業	
5 事業概要	同地域における森林整備結果事例と植生調査など、自然環境調査資料、専門家、市民団体（よそ者）のコメントなどの冊子纏め等、地域住民と専門家、調査参加団体によるフォーラムや酒々井町民への成果発表の準備並びに、地域の自主的な森林整備に対する支援サービス体制を整える。	
6 事業経過	<p>A; 森林整備事例（モデル林）づくり 森林整備について地主との協定を締結、事務局及びスタッフによるモデル林づくり。（林内植生調査・保水力調査・林型計画・低木の徐伐作業等を行い下草の豊かな、保水力のある森づくり）雨天を除き参加者（5名）で毎週火曜日に実施した。（現在も継続中）</p> <p>B; 4月19日（土）B-Net 子供センターの子供（23名）による観察路見て歩き「好きなところ、気になるところ」感想文{感想文の纏め及び写真は別添資料の通り}</p> <p>C; 女性および高齢会員による植生、野鳥、昆虫等の自然観察6月9日自然観察グループ（5名）による観察会を実施した。</p>	

- D;人が立ち入ることが出来なかった水路に沿った観察路が整備されたことにより、タウンカレッジ（湧水調査グループ）による湧水調査がおこなわれた（実施日不明）、後日、6月24日湧水調査実施者の案内で5カ所の湧水を確認した。
- E;中学1年生による現地観察会と体育館における白地図への「望まれる森将来像」記入を予定していたが、時間的に困難であるため、ウイッシュポエムとその発表会を実施した。実施日は6月26日；70名、27日70名、計140名/2日間）{ウイッシュポエムの纏めと写真は別添資料の通り}
- F;自主的な森林整備へのチェンソーによる枯木立等の討伐サービス、グラッフルによる倒木整理等に加え、9月10日クローラ運搬機、9月30日シュレッダー（木材破砕機）を購入配備し、森林整備（特に伐竹の処理に格段の能率向上がはかられた。）なを、1月15日、16日 林業サポート事業として0.8haの松林、杉林の打枝破砕を実施した。
- G;スタッフによる馬橋地域の70歳以上の高齢者を対象に地域自然の変遷についてのヒヤリング調査。9月に3名の高齢者を訪問実施した。（昭和62年頃から谷津の土地の略全てが手放され、現在は地元と縁の無い土地であるとの情報を得て当地の荒廃原因であると確信し、不動産調査を開始。
- H;12月6日 町内のまちづくり団体、自然環境関連団体の参加（27名）による観察路（27ポイント）の「ふれあい調査」（各ポイントで感じた事を記録）を実施。
- I;3月に予定していた地元を対象に会員により整備した森林の現地説明会と馬橋青年館における懇談会。（対象者は馬橋大鷹神社氏子『馬橋親睦会』とスタッフ及び会員）は地元の事情により実施困難との判断し、2月21日「ちばNPO 月間協賛事業」テーマ;市民参加の緑のまちづくり(里山活動体験講座)に変更、町の後援を得て、自然環境関係の市民活動団体、に同地における取組みと今後の課題を発表（47名参加）。後日、町長からの要請により酒々井町庁内会議にて管理職33名に同発表を行う機会を得た。

<p>7 事業成果</p>	<p>具体的な成果</p> <p>具体的にどのような成果が出たのか、当初の目標に照らしてどの程度達成できたのかを記載してください。</p> <p>当初の目標は地域住民との協働における情報の共有化をめざした、資料の収集と冊子の編集であったが、むしろ地域との情報共有化の場の設定は難しく、NPO 月間協賛事業として実施したイベント「市民参加の緑の町づくり」において、市民活動団体や町へ当地の土地所有者の実態や都市マスタープランの実行性について問題提起をすることができた。</p> <p>また、本助成金をもとに購入した「チップパー（木材破砕機）の導入により、地域住民、町、市民活動団体に「ボランティア（任意団体）でもここまでできることを示すことができ、参加者から高い評価を得た。</p> <p>しかし、銀行不良債権となっているこの地への住民の想いや、期待を聴いても、積極的な意志表示は期待できない状況にある。</p>
<p>8 直面した課題と今後の展開</p>	<p>直面した課題</p> <p>この事業の過程で直面した課題・問題を記載してください。</p> <p>a. 木材破砕機（チップパー）の導入に当たり、破砕機の運搬に必要な軽4輪トラックや積載補助機材（スロープ）が必要になった。なを、傾斜地からの材搬出のためのクローラ運搬機導入により、スタッフ報酬額をこれら機材の購入費に充当した。</p> <p>b, 前々項3Gの高齢者からのヒヤリング調査において前項 dにより不動産移転登記の実態に関する調査が必要となった。</p> <p>c; 土地区画整理組合設立準備における地元内の事情、現在は地元住民と関係の無い土地となっている等、地元の当地への感心がなくなっていることが判明、地元主体の活動への動機づけは、かなりの困難が予想され、一層の調査・検討の上戦略の変更を余儀なくされた。</p> <p>平成21年度以降の事業展開</p> <p>この事業は20年度の県の補助事業としては完了しますが、どのように事業活動を展開していくのかを記載してください。</p> <p>地域住民主体の「緑のまちづくり」はむしろ町との協働事業として地域住民の参加を促していく方針に切り替えを試みることにして下記の展開を行うことを検討する。</p> <p>a; 会員による更なる森林や観察路の継続的整備推進。</p> <p>b; 町との意見交換・課題の共有、</p> <p>c; 印旛沼流域わいわい会議への参加（「印旛沼水循環健全化と谷津の整備課題」）</p> <p>d; 町と協働による地域へ働きかけるイベントの開催。</p>

<p>9 補助金事業の感想等</p>	<p>NPO活動費補助金を行った感想や、応募についてのアドバイスなどがあれば記載してください。</p> <p>県の指定する補助金実施対象期間と NPO の事業（プロジェクト）とは一致しない、7月～2月の短期間で成果を生むことは難しい。</p> <p>NPO の活動は目的達成まで継続して実施されるものであり、会計年度も一般企業と同様に4月～3月であります。</p>
--------------------	--